

スクールカウンセラーだより

一人一人の声を聴く

2学期が始まってしばらく経ちましたが、いかがお過ごしでしょうか。日中はまだ暑い日もありますが、朝晩はだいぶ過ごしやすくなり、秋が少しずつ近づいてきているようにも感じられます。

秋は、何かに集中したり、新しいことを始めたりするのによい季節だと言われています。子どもの頃の私は、秋になるとよく本を読みました。私は童話が好きで、特に、『みにくいあひるの子』、『マッチ売りの少女』、『はだかの王さま』といったアンデルセンの童話は、大人になった今でも心に残っています。

ご存じの方も多いと思いますが、アンデルセンは、19世紀のデンマークの童話作家です。アンデルセンは生涯にわたって多くの作品を生み出しました。アンデルセンは、自分の作品のなかに、女性や子ども、障がいがある人、貧しい人等、当時の社会で不利な立場になりがちだった人を多く登場させています。その背景には、「そうした立場の人から見た世の中のほうがより真実をついている」というアンデルセンの考えがあったと言われています。



さて、アンデルセンが生きた時代に比べると、現代は、性別や年齢、障がい、貧困等で、社会的に不利な立場に立たされるということは少なくなっているのかもしれませんが、しかし、私たちの社会では、多くの人が「普通」と感じる事が、正しいこと、望ましいことのように支持され、そうした「普通」の価値観に合わない人、いわゆる少数派の人が、社会的に不利な立場に立たされて生きづらさを感じることもあるようにも思います。多くの人が思う「普通」は、価値観のひとつとして参考にはなるかもしれませんが、「普通」というのは、そもそもとても不確かなものであり、その基準は時代や環境によって変わります。多数派の人の「普通」が正しくて、そうではない少数派の人の「普通」が間違っているというわけではありません。かけがえのない一人一人の思いが、十分尊重されることが大切だと考えます。

多数派の人は、多数派であるがゆえに、相手との間に相互理解が生まれやすい一方で、少数派の人は、相手に理解されたり共感されたりすることがなかなか難しいように思います。そして、そうしたことが少数派の人の生きづらさにつながっているようにも感じます。私たち一人一人のなかには、多数派の部分と少数派の部分が混在していて、誰もが多数派、少数派になりえます。もしお悩みや心配事をおかしているようでしたら、ぜひ相談にいらしてください。一人一人の声に寄り添いながら、一緒に考えていければと思っています。

スクールカウンセリングでは、保護者の皆様からのご相談も承っております。お子様のことで気になることがございましたら、お気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

スクールカウンセラー相談日(9~12月)

9月	4日(午前)	11日(午前)	18日(午後)	25日(午前)	
10月	2日(午後)	9日(午前)	16日(午前)	23日(午後)	30日(午後)
11月	6日(午前)	13日(午後)	20日(午前)	27日(午後)	
12月	4日(午前)	11日(午後)	18日(午前)		



◇ 曜日はいずれも金曜日です。時間は、午前が9時15分~12時、午後が13時~15時45分です。

◇ 相談を希望される場合は、事前に学校までご連絡ください。

電話番号 011-661-0397 (担当 上新先生)